5　家庭科が分離独立することについてのご心配やご意見など自由にご記入ください。

（回答者の記載のまま）

〈授業数に関して〉

現行では、3 年生での授業時間が技・家で 35ｈであるが、次期 CS で他からの時間の拠出が無く、35ｈのままだと、家庭科の時間が無くなってしまうのではないかと心配。
3 年生で幼稚園実習に行くこともあり、3 年 0.5 コマとなると日程を組むのが難しく、技術が非常勤のため迷惑をかけてしまう。また 3 年が 0.5 コマというのは、他教科よりも持ちコマ数が減るため、実習教科で複数学年担当する大変さがありながら、他教科も担当しなければならない流れが強く、分離独立するのであれば、**3 年生の時間数の拡大は強く希望したい**。
授業時数が増えるのであれば(特に 3 年生)ありがたい。評価でいうと自分だけでつけられるメリットもあるが、他教科に比べて少ない時数なので家庭科だけだと説明責任が問われた時に心配なのでデメリットだとも感じる。
独立するのであれば、３年生も３５時間にしてしっかりと学ばせたい。
3 年生の授業時数がどうなるのか、それに伴い学習指導要領で定められる内容がどのように変わるかなど、詳細がわからないと何とも言えないですが、たいていの学校が技術・家庭科の教員はそれぞれ 1 人もしくは合わせて 1 人という状況の中で、授業内容や成績、試験等、校内で相談する相手が誰もいないという状況をどのようにカバーしていくのかについても心配ではあります。当面は技術科との相互連携は続くと思いますが、時間が経ち新しい先生が増えるにつれて、それぞれ各自でとなるかと思います。そうなった際に、自分が間違っていることにも気付かずに進んでしまう可能性があることに不安を覚えます。
時数が少ないと複数校を兼任させられ、担任を持てなくなる。移動時間や授業準備片付けに時間が増える。そのため、仕事量が増え残業も増える。校務分掌も偏りが出て、スキルアップに支障が出る。
時間数が多くなるのか？これまでの全国大会や東北大会、県大会などはどうなるのか？
分離独立するのは、良いが、**今よりも時間数が減らされる懸念がある。**
授業時数がこれ以上減らされないかが心配である。
分離により、時数削減にならないか懸念しています。
家庭科が軽んじられないように、大学での教員育成から確立していただきたくお願い申し上げます。**決して現在より時数削減にならないよう**、学習内容の充実、教員確保（一校一人以上、2 校掛け持ち不可、免許外教員は不可）について希望します。
もし時数が減ると、専任がさらに減り講師の需要が増えることになるので、それは避けたい。 **どの規模でも専任の家庭科を置いてほしい**と思う。
授業時間数が減らないか
授業時数、人事

授業時数、成績業務などが不安
授業時数が心配
授業時数が削減されるのではないか。また、授業時数が削減された場合、教員配置も減るのではないか等を心配している。
授業時数が減になるのでは、現場での教員（専任・常勤）数は確保できるのか、他教科との抱き合わせは増えないか、研究会の運営（研究の推進）はどうなるのか、など。
授業時数の確保。授業の質の確保。研究会の運営が半減するので、業務負担の増加。研究が組織として成り立つのか。
授業数のこと、
授業数が確保されるなら、何の問題もない気がします。
授業時間数が増えるのに心配があるが、授業取れれば、やりたいことができたり、実践課題ができたりするのでよいかと思う。 ただ評価については、単独になると相談できず、心配がある。
コマ数が減ること。教科のつながりを意識した授業。
授業数が減る事態にならないか心配しております。
時数を全学年 35 時間にしてほしい。
一人で担当するので，成績の付け方など相談できる人が近くにいてほしい。 ３年生が２週に１度なので，他学年と一緒の週に１時間になってほしい。
心配なのは 3 年の授業時数です。35 時間はいただきたいです。
３年生の年間授業時数が現行の 17.5 のままとなった場合、成績の出し方に不安があります。
また、3 年生は家庭科が 17.5 時間と言うことは、学期に 5 時間程度しか授業がありません。そのうち 1 時間はテスト返却、解説の時間にとられるので、実質 4 時間です。たった 4 時間で何ができるのでしょうか？特に 3 年生は受験を控えており、生徒も保護者も成績に敏感です。たったの五時間程度で納得のいく説明ができるほどしっかりした授業ができるでしょうか？私にはできません。結局、授業の質が落ちることになります。
②中学３年生に必修時間を確保しないと、高校進学のフレームに絡まなくなり、教科が軽視されかねないので、中学３年に必修は必須と考えるが、 次期学習指導要領では、各学校の弾力的な運用で、履修時間が幅を持たせる事も可能になるとすると、35 時間を目指しつつ、とにかく中学３年に必修教科となるように強く要望したい。
現時数を超えられないという話を聞く。家庭経営力の低下を考えると今こそ家庭科での学びが必要だと考えている。他教科を総合し生きる力を育成する観点から特に 3 年の授業時数は 35 時間を超えて確保したい。

分離独立で現行の授業時数３年生は１７.5 時間になり、３学期制だと８時間未満で評価をすることになります。正しく評価できるとは思えません。特に転勤したすぐなら。
そのうち授業時数が減る（技術に３年生の時間が全てうつる）のではないかと心配しています。また、そうなった場合、授業がないのに３年生の担任が任されるのかどうなのかが不安です。
３年生の時間数の少なさが心配です。１学期は４時間程度しかないのに評価できません。
現在の第３学年の時数で、技家別々に成績をつけることになれば、材料が少なくなることが予想され心配である。
３年生も週１日してくれるとうれしいです。
家庭科を教科として確立するためには専科教員を置くこと、免許外教員に家庭科免許を取らせること、中３の時間数を最低 35 時間確保することが必須だと思います。
分離された後に家庭科の授業がなくなるのではないか
技術の教員と相談が必要ないのは有り難い。しかし、家庭科のみで評価するとなると、現在の時数では難しい。３年生は、少なくとも３５時間は必要である。

〈教員について〉

家庭科が軽んじられないように、大学での教員育成から確立していただきたくお願い申し上げます。決して現在より時数削減にならないよう、学習内容の充実、教員確保（一校一人以上、２校掛け持ち不可、免許外教員は不可）について希望します。
各校一名の専任家庭科教員を確保する事が難しいと思われます。
家庭科の専任教諭も欠員が出ている中で、分離独立すると、その時間に穴が開いて他教科が埋める形が予想され、危惧されます。
分離独立するのであれば、必ず家庭科教員を学校に配置いていただきたい。
これをきっかけに家庭科専科の採用が増えたらいいと思う
学校で技家教師１名という学校もあったので、それがなくなるのなら良いですが、人員は大丈夫なのか
授業時数が減になるのでは、現場での教員（専任・常勤）数は確保できるのか、他教科との抱き合わせは増えないか、研究会の運営（研究の推進）はどうなるのか、など。
学校に一人の教員配置はかなり不安である。授業時数がどのようになるかによっても、学校規模によっては学級担任ができないので、更なる教員不足に発展すると思う。現状として技術科教員がおらず、再任用の先生方が兼務という形で無理やり授業をしている学校があるのに、情報・技術科にすることで教員が増えるとは思わないし、負担が増えるだけ。「技術・家庭」でもらっている免許状を新しくする必要はあるのか知りたい。

教員不足の問題を解決できていないため、無理です。現場の負担が大きくなるだけです。 人員の確保ができていないのにこんなことをやるのは馬鹿げています。指導者不足で頓挫している部活動外部化と同じ失敗をしていることに気がつかないのでしょうか？ 現在どの地域も教員不足のため、片方の免許しか持っていない教員がどちらも授業をしています。未履修のまま数年過ごし、先生が来るのをを待ち続けている生徒がいる学校もあります。こんな状況なので、現在頑張っておられる技術科、家庭科の先生の負担が増えるだけなのではないでしょうか？または、委員会に言いくるめられて臨時免許を持たされた若い先生が、専門でもないのにやらされて大変な思いをするのではないかと心配しています。 免許外講師の登用は、より教員が減ることにつながり、トラブルが多発するのも目に見えています。また、教育学部を持つ大学へ進学する意味、教員免許状の価値をおとしめています。
分離は賛成だが、授業時間数が増えないと、学校に１人配置にならない。兼務勤務は減らない。
心配なことは、小規模校においては、非常勤となることや、臨時免許の教員がもつことになりそうなこと。
授業時数、人事
家庭科を教科として確立するためには専科教員を置くこと、免許外教員に家庭科免許を取らせること、
家庭科を免許外でもよいといわず、専科を増やしてほしい。青森県は他地区に比べ専科が少ないので。
専任教員の配置が難しくなりそうで，教科の特性上非常に危惧される。
専科の専任教員を各学校に必須配置を！教免は必須です！
公立中学の中規模の学校では専任が取れなくなり、家庭科の専任が不在である学校が増えると思う。心配です。
もし時数が減ると、専任がさらに減り講師の需要が増えることになるので、それは避けたい。 どの規模でも専任の家庭科を置いてほしいと思う。
①専任教員がいない学校があり、専任を増やすような手立てを打てないものか。免許外教員を減らす。
家庭科の教員が不足しているため、他教科の教員が家庭科を担当することが通常となると、専門性が薄くなってしまうのではないかと心配です。
全ての中学校に時間講師ではなく専任の家庭科教員を配置することを要望する。 専門性が必要な教科であり、かつ成績処理および授業準備やかたずけの時間がキチンと確保できる勤務形態が望ましい。時間講師だと満足する授業をするためには時間外勤務をするしかない。
時数が少ないと複数校を兼任させられ、担任を持てなくなる。移動時間や授業準備片付けに時間が増える。そのため、仕事量が増え残業も増える。校務分掌も偏りが出て、スキルアップに支障が出る。
教員が少ないため、多くの学校が免許外の先生が補っている状況。 家庭科の教員がいない学校は困ると思う。また、管理職になっている先生も増えていて、管理職抜きには研究も難しい状況。

県内に免許をもった家庭科の教員が配置されている学校が少なく、教員数も少ないので、研究会や事務連絡等を含めての運営に不安を感じている。
小規模校になると、免許外の先生が家庭科を担当していることが多く、技術と分離されることで、加速するのではと心配しています。
家庭科の教員は足りているのか？免外の担当者が増えないか心配
現状家庭科の教員数が少なく、**免許外で指導する学校が多数。分離独立すると益々その数が増加**することになる。拠点校指導も増えるだろう。**免外教員の負担ももちろん**だが、**子どもが専科から家庭科の授業を受けられないことが一番の問題**である。
教員配置は特に心配。時数で、切られる場合有り、免外が増えるのではないかと不安
免許外の先生方の負担が増える

〈評価評定〉

週に１時間の授業で、実習も入るとテスト範囲が狭くなり、**１００点分のテストを作るのが厳しい。**
技術の教員と相談が必要ないのは有り難い。しかし、**家庭科のみで評価するとなると、現在の時数では難しい**。3 年生は、少なくとも３５時間は必要である。
成績評価が家庭科のみになること。
現在の第 3 学年の時数で、技家別々に成績をつけることになれば、材料が少なくなることが予想され心配である。
良いと思うが、**7 割近くいる免許外担当者の負担は大きい**。期末テストについて、技家は合わせて 50 分、各 50 点で実施していたが、どうなるのか。
評価でいうと自分だけでつけられるメリットもあるが、他教科に比べて少ない時数なので家庭科だけだと説明責任が問われた時に心配なのでデメリットだとも感じる。
授業時数、**成績業務などが不安**
成績について　3 名
3 年生の授業時数がどうなるのか、それに伴い学習指導要領で定められる内容がどのように変わるかなど、詳細がわからないと何とも言えないですが、たいていの学校が技術・家庭科の教員はそれぞれ 1 人もしくは合わせて 1 人という状況の中で、**授業内容や成績、試験等、校内で相談する相手が誰もいないという状況をどのようにカバーしていくのかについても心配**ではあります。当面は技術科との相互連携は続くと思いますが、時間が経ち新しい先生が増えるのつれて、それぞれ各自でとなるかと思います。そうなった際に、自分が間違っていることにも気付かずに進んでしまう可能性があることに不安を覚えます。
家庭科の専門教員が少ない中で、**評定や授業のことなどを技術科教員と相談しながら進めることがで**

きないのが心配である。
授業内容，成績（評価），試験において相談することができない環境は不安である。又，今後の勤務校が２校の所属となった場合より一層，不安は大きい。
各校に１人しかいないので相談できないことが不安
一人で担当するので，成績の付け方など相談できる人が近くにいてほしい。
各校一人教科のため、若年者が困ったときに教科の本質にせまる相談ができる相手がいないこと。他教科との兼任をしている教員が両方一人で評価することは負担が大きすぎる。たとえば、今技術と家庭科を両方教えている教員は、全学年の２教科分の評価をしなければならない。複数人数いる他教科と比べて公平性が少ない上、一人の責任が大きすぎる
本校では、多分何も変わらないと思う。公立校においては、家庭科の教員がいない場合など、誰がどのように成績をつけるのか、心配になる。
また、3 年生は家庭科が 17.5 時間と言うことは、学期に 5 時間程度しか授業がありません。そのうち 1 時間はテスト返却、解説の時間にとられるので、実質 4 時間です。たった 4 時間で何ができるのでしょうか？特に 3 年生は受験を控えており、生徒も保護者も成績に敏感です。たったの五時間程度で納得のいく説明ができるほどしっかりした授業ができるでしょうか？私にはできません。結局、授業の質が落ちることになります。
１・２年生は週１回、３年生は２週間に１回の授業で評価をつけることに判断材料が十分なのか不安を覚える。
３年生の時間数の少なさが心配です。１学期は４時間程度しかないのに評価できません。
中学三年生は２週に１回の授業なので評価の材料が整うか不安である。
定期テストを５０点ずつで技術と合わせて作成したいたが、分離独立すると、それぞれ１００点で作るのか。そうなれば、今のままの時数では内容が難しい。
定期テストのこと
一番不安なのはテストについてです。今まで技術と 50 点ずつだったため、100 点、1 時間の問題作成が不安です。音楽なら写譜、美術なら模写のような、実技に関わるテストをペーパーテストと一緒に行わなければ、点数が足りず、時間が余ると思われます。食生活なら 6 つの食品群と献立作成で実技に関わるテストができそうですが、すべての分野で思いつきません。ペーパーテストと一緒に、布を配布して「まつり縫いをしなさい」みたいなテストをしてもいいのでしょうか…(^_^;) 　3 年生については、現状の 17.5 時間で学期末テストを 100 点分作るのは不可能だと思います。3 時間程度の授業時数分で 1 学期末テストを作成している学校も少なくないと思われます。もし、3 年生 17.5 時間を維持しなければならないのなら、1 学期：技術科、2 学期：家庭科、3 学期：合同実施のような、授業が隔週にならない工夫をしていただきたいです。

免許外対応のない東京都では家庭科教諭は講師対応で専門性は担保されるが、複数校掛け持ちのためどうしても成績処理の事務手続きは専任に任せることが多い。
①**大規模な学校では時数も多く、1 人で成績をつけることが負担になることが予想**されます。実際の現場では、時数の関係で免許外の教科も担当しています。
特に大きな変化はないかなと思うが、**評価だけが心配**
成績の出し方など複雑だったので、独立できてよい
免許外の人は評価が 2 教科分やらなければならない

〈研究会について〉

家庭科部会の近畿大会や全国大会の形がどうなるのかが気になります。それぞれ**役割を分担して運営**を行っていたので。
教科の研究を進めることが厳しくなると思います。特に小さな市町村では、技術と家庭の先生全員で協力して研究を進めてきました。それが、半分になり、家庭科ではパソコンやネットなどに詳しい先生が激減するとなると人的にも物的にも研究を推進することが難しくなると思います。
授業時数の確保。授業の質の確保。**研究会の運営が半減するので、業務負担の増加。研究が組織として成り立つのか。**
研究会等の運営
全国の都道府県を見ても、研究会の運営を技術の先生が担っていることが多いため、組織を分裂させた時に、家庭科の研究会を維持できるかが不安である。 また、**研究会としての会計をどの様に分けるのかが決まっていない**状況で、そのあたりの資金繰りから組織の組み立てまでがきちんとできるのかや、研究発表大会のあり方をどの様にしていきのかが、全日中からも含め降りてこない状況なのでどうなるのかを危惧している。特に令和 9 年の指導要領が示されてからと 11 年の完全実施においてどの様になっていくのかが不安であり組織の上のものとして現場の先生にどの様に発信していけばいいかがわからない。また、次の年度の教科の分担金をいつ頃から委員会などに申請をしていけばいいのかも不透明でそもそも、一つの教科として分担金を出していただいていたものを 2 つに分けることにより 2 倍請求できるかもわからない。
県内に免許をもった家庭科の教員が配置されている学校が少なく、教員数も少ないので、研究会や事務連絡等を含めての運営に不安を感じている。
授業時数が減になるのでは、現場での教員（専任・常勤）数は確保できるのか、他教科との抱き合わせは増えないか、**研究会の運営（研究の推進）はどうなるのか**、など。
全国大会、九州大会、県大会の開催難しくなるのではないかと不安である。運営ができるのだろうか？
地区の組織や県大会、東北大会等の今後の運営がどうなるのか

時間数が多くなるのか？これまでの全国大会や東北大会、県大会などはどうなるのか？
技術と分離することで、中教研の研究・運営が難しくなるのではないか。分離独立した場合、本校が属する地区では、教員数が少なすぎ研究はともかく、中教研の県大会や東北大会の運営は不可能になる。
②分離独立するのであれば、地域に小中高の合同研修会等が行われるとありがたいです。お互いの現状をシェアしながら、生徒の育成ができるように思います。

〈授業形態〉

教室での講義授業は１コマでいいが、実習は２コマ連続が良いのでその調整をどうするか
調理実習等の授業時間の調整をこれまで相談しながらできたので、不安です。また、実習のための時間がなかなか取れないので、中学校でも実習助手の先生の手配が必要です。一人で２５クラスの対応をしているため、空きの時間が全く取れていません。
技術と家庭科が分離独立したら、授業時数も半分ずつ、1 年と 2 年はそれぞれ年間 35 時間の週 1 時間授業になるのだろうか。調理実習や保育実習など、2 時間連続授業でないと厳しい実習が多い。週 1 時間になったら保育実習などは無理。授業交換して 2 時間連続の時間をつくるにしても、自分の持ちクラスが各学年 4 クラス以上あり、自分の空き時間が 2 時間ほどしかない中で授業交換はかなり厳しい。総合的な学習の時間をうまく活用すればいいと言われるかもしれないが、総合は学年単位・コース別でやっているので、学年からはもらえない。 今は、1・2 年生は年間 70 時間で、技術と家庭科で抱き合わせで時間割を組んでもらい、題材によっては栽培や郷土料理、保育実習など、季節によって授業で扱える時期が限られるため、通年で原則週 1 時間で授業を行っている。保育実習など 2 時間連続授業が必要なときに技術科の先生に協力してもらって、2 時間連続授業を作っている。 今後、そういった柔軟な運用が可能か心配。
製作の授業では、協力してもらい、2 時間連続にしていたが、どうなるのか、現場に不安があると思う。
1 組が技術なら家庭科が 2 組という取り方をしている。実習のときは 2 時間続きにできるようにしているが、技術とは別になるので、できなくなる。
隔週で技術と家庭科の授業を行っていたため、授業時間は 2 時間連続の授業時間を確保してきましたが、家庭科だけの授業となった場合、２時間連続の授業が確保できないため、実習に影響が出ることを懸念しております。

〈働き方〉

また 3 年が 0.5 コマというのは、他教科よりも持ちコマ数が減るため、実習教科で複数学年担当する大変さがありながら、他教科も担当しなければならない流れが強く、分離独立するのであれば、3 年生の時間数の拡大は強く希望したい。
家庭科教員が不足しているからか、規模が大きくても一人配置のため、分離独立することでより負担

が大きくなるのではないかと不安がある。
授業内容，成績（評価），試験において相談することができない環境は不安である。又，今後の勤務校が２校の所属となった場合より一層，不安は大きい。
分離は賛成だが、授業時間数が増えないと、学校に１人配置にならない。兼務勤務は減らない。
兼務はやめてほしい。
①大規模な学校では時数も多く、1 人で成績をつけることが負担になることが予想されます。実際の現場では、時数の関係で免許外の教科も担当しています。
現状では、3 学年 8 クラスを一人で担当するなど、家庭科担当への負担が非常に大きく、技能教科としての特性が十分に考慮されていません。 授業準備・片付け・作品評価・食材料の管理・実習計画など、授業外で多くの時間を要しています。 そのため、授業 1 時間あたりに準備時数として＋0.5 時間程度の加算を設けてほしいです。 また、実習助手の配置や、調理・被服室整備の時間的・人的保障も必要です。
時数が少ないと複数校を兼任させられ、担任を持てなくなる。移動時間や授業準備片付けに時間が増える。そのため、仕事量が増え残業も増える。校務分掌も偏りが出て、スキルアップに支障が出る。
各校 1 人の配置の上、各学年での学習内容が多岐にわたり、成績や実習準備など全てを一人で行わなければならないのが不安である
全ての中学校に時間講師ではなく専任の家庭科教員を配置することを要望する。 専門性が必要な教科であり、かつ成績処理および授業準備やかたずけの時間がキチンと確保できる勤務形態が望ましい。時間講師だと満足する授業をするためには時間外勤務をするしかない。
授業時数が少ないため、複数兼務になると大変

〈その他〉

五教科の授業が減らされるのが心配です
家庭科をより深く学べると思うので良いと思います。
時間数のことよりも、技術免許を持つ人材が確保できるかどうか不安がある
教員の専門性が不十分になるのではないかという不安がある。たとえ授業数や教員の配置数、採用数が増えたとて、教員の実力と授業の内容が伴っていなければ意味がないという結果にならないか。
調理実習等の授業時間の調整をこれまで相談しながらできたので、不安です。また、実習のための時間がなかなか取れないので、中学校でも実習助手の先生の手配が必要です。一人で２５クラスの対応をしているため、空きの時間が全く取れていません。
新任教員の指導（これまででであれば新任家庭科教員に技術教員が指導するなどしやすかったが、分離独立すると難しくなる。）
教員の配置については、現状、技術・家庭科として各校の学級数をもとに配置数が決まる。学級数 12

学級以下では 1 名の配置しかなく、技術を専任にすることが多い。免許外対応のない東京都では家庭科教諭は講師対応で専門性は担保されるが、複数校掛け持ちのためどうしても成績処理の事務手続きは専任に任せることが多い。また、**研修の機会も少なくスキルアップが難しい。実習をやらせたくても準備の時間は保証されず、授業時数の少ない中で習得させたい技能に絞って実習をさせようとすると、大幅に準備時間がかかるがそこまでは手が回らないのが実情。また、外部人材の活用や幼児ふれあい体験など、外部との折衝のある授業もよほど力のある講師でないと難しい。免許外で家庭科の指導要領に精通しない教員がその目的を捉えて児童生徒に有効な教育実践ができるものではない。**これは、他教科でも同様のことが言える。養護教諭が各校に配置されているように、全ての学校に各教科 1 名ずつの配置は必要と考えている。
「標準授業時数の弾力化」が脅威です。勤務校が男子校で、伝統的に技術分野が重視されています。「弾力化」を機に、「本校の特色を示す」として「技情」に思い切り時間数を取られてしまうのではないかと、本気で心配しています。
中規模校を基準として、専門教科を主に時間割が組まれることを希望する。**免許外教科や支援学級が自分の専門教科の時数より多いことはかなり負担に感じる。大規模校には 2 人の配置を希望する。時数の関係で多くの学校において家庭科の教員が支援学級を資格なしに担ってきている。ジェンダー的な役割を感じる。**
分離した場合、**小規模校で免許外の先生が授業しているところはかなり大変になると思う。ただでさえ、小規模校や場所によっては中規模校にも家庭科の教員は配置されていないところも多く、一生懸命授業研究しても、教育の格差が生まれている**のに、**ますます家庭科がおろそかになり、家庭科を教育する重要性が薄くなっていくのではないかと思う。**